

Rotary



## WEEKLY REPORT

高山中央ロータリークラブ

2018～2019 年度 高山中央 RC 会長テーマ

「凡事徹底」～友情と情熱と行動と～



インスピレーションになるう

◆会長 高原 清人 ◆幹事 岩本 正樹 ◆会報委員長 道下 利一 ◆会報担当 新井 信秀

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市本町1-2

飛騨信用組合本町サテライト出張所 3階

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

&lt;出席報告&gt;

	会員数	出席会員	出席	Make-up	出席率
本日 1188 回	55 名	54 名	43 名	—	79.63%
前々回 1186 回	55 名	54 名	43 名	5 名	88.89%

<点 鐘> 会長 高原 清人  
<ロータリーソング> 奉仕の理想  
<高山中央ロータリークラブ職業倫理基準>

<会長の時間> 会長 高原 清人

皆さんこんにちは。  
朝晩めっきり冷え込んできましたが、体調はいかがでしょう。本日の例会は情報・研修委員会の担当で、大保木委員長を始めとする委員会の皆様にはお世話になります。



先般開催されました IDM には、入会 5 年以内の会員の皆様にも大勢参加頂き、実りある会となりました。講師を務めていただきました歴代会長の皆様にも厚くお礼申し上げます。

後ほど参加者の方々にスピーチを頂くわけですが、大勢の参加者の中から特に厳選された皆さんとなっておりますので、乞うご期待です。

さて、昨日は第 33 回目の「飛騨地区 IAC 合同研修会」が下呂の地で開催され、私と岩本幹事の 2 名で参加して参りました。今年度は益田清風高校インターアクトクラブがホストクラブとなり、下呂 RC と高山中央 RC がスポンサークラブとしてサポートをして参りました。サポートとは言え、当クラブは協賛金を拠出しているものの、下呂クラブにおんぶに抱っこ状態であり、一考の余地有りと思った次第でした。

参加者はスポンサークラブの益田清風高校 IAC、斐太高校 IAC、飛騨高山高校 IAC が参加し、生徒出席数は 42 名でありました。

加えて、来賓・特別参加者として、内田 AG、地区インターアクト部門委員長で下呂 RC の布目さん、同副委員長で高山西 RC の塚本さん、そして同委員で昨年 AG を務められました美濃加茂 RC 井尾さんにご参加されており、中々ロータリーから抜け出せないのかと思いました。

受付からプログラムの進行に至るまで全て、益田清風高校 IAC が担当し、役割分担の上、スムーズな運営をされて見えました。

研修会講師として益田清風高校 IAC OG で現在三菱商事株式会社にお勤めの布目直子さんにより「自分の魅力を発見・発信！」と題し、ワークショップも含め 1 時間 50

分という長時間にも係らず弁舌もさわやかに、生徒たちも参加するなど工夫を凝らした楽しい研修会となりました。講師の布目直子さんは、地区委員長で下呂 RC 布目さんの娘さんということもあり、ご本人より父親のほうが冷や汗ものだったとお聞きいたしました。

本年度クラブは青少年交換研究委員会を設立し、青少年交換、IAC クラブを含め、新たな青少年育成のための事業への切り口を探るべく、熊崎委員長を筆頭に活動して頂いております。IAC について申し上げますと、飛騨地区には先に申し上げましたが、3 つの IAC があります。それぞれ順番に今回のような合同研修会を主管しており、3 年に 1 回廻ってくるようです。それに加え、第 2630 地区年次大会が三重と岐阜にて持ち回りで行われ、今年度は三重県の津市にて開催され、次年度は斐太高校がホストとなり、スポンサーが高山 RC として開催される予定となっております。

一昨年の青少年交換事業のこともあり、どのような青少年育成の事業を選択するにしても、楽な道はないように思いますし、取り組むからには真剣に前向きな姿勢が必要であると感じました。

皆様方のご意見を拝聴する時期も遠からず訪れると思いますので、忌憚のないご意見を賜りたいと願っております。以上会長の時間と致します。



レバンチ君へ奨学金



二木さんへ出産祝い

<幹事報告> 幹事 岩本 正樹

◎国際ロータリー第 2630 地区ガバナー事務所より

・クラブ増強報告 (9 月)

・地区大会参加の御礼

&lt;高山市文化協会より&gt;

・新年市民互礼会・名刺交換会

飛騨文芸祭表彰式開催のご案内

日時：1 月 1 日 (火) 11:00

場所：ひだホテルプラザ

会費：7,000 円

&lt;会報&gt;

・下呂 RC



## <情報/研修委員会> 副委員長 山本 辰男

本日は、情報/研修委員会の担当例会です。大保木委員長が欠席のため、副委員長の私が代わりに担当させていただきます。

先日（10/17）行われました、新会員を交えての IDM の報告を参加者のみなさんをお願いしたのですが、本日お一人だけの出席となり、小出さんには地区大会報告に続き毎週の発表となります。

時間は充分ありますので、よろしくお願いします。



## < IDM 報告 >

### 小出 貴博

先週水曜日 10 月 17 日に、山陣にて「ロータリーを学び考える夕べ」と題した IDM に参加いたしましたので、報告いたします。

参加メンバーといたしましては、新会員では海老沢さん・古橋さん・直井さんと私の 4 名、お相手いただくのは、情報/研修委員会である歴代の会長の方々と、委員長 大保木さん・島さん・三枝さん・山本さんの 4 名と高原会長・岩本幹事・事務局河上さんの 3 名、合わせて 11 名で行いました。

内容といたしましては、まずは委員長であられる大保木さんの挨拶に始まり、高原会長の挨拶、ここで会長は、「この情報/研修委員会は、頼んで歴代の会長の方々と構成していただいた」とのことでした。また、「近年の入会者にロータリーというものをちゃんと知ってもらうために」とも言われました。

いきなりかなりのプレッシャーです。ぐいぐいとハードルを上げていく会長は、最後には「当然素晴らしいものになる」と締めくくりました。当然この報告までが IDM の成功なのだと思うと原稿を書く手が震えてきます。

本題に入り、14 代会長である島さんより、「わたしのロータリー考」という題でお話いただきました。職業宣言をメインにお話しされ、偽装や不正をしたロータリアンを例に挙げ、倫理的規範や倫理的基準をお話いただきました。また、ロータリアン同士の限度を超えた便宜は求めず、与えることもしない、とも言われておりました。求めても駄目ですよ。

次に、「高山中央ロータリーの成り立ち」として、18 代会長の三枝さんよりお話いただきました。創設が 1991 年（平成 3 年）5 月 20 日、R 1 認証が 6 月 6 日で日本では 1960 番目のクラブでした。1991 年、皆さんピンと来ないかもしれないので、少し時代背景をお話ししますと、多国籍軍がイラクに空爆を行い、湾岸戦争がこの年に始まりました。それにより自衛隊が初の海外派遣となりました。（海上自衛隊がペルシャ湾に派遣）

世界中で独立が始まり、リトアニア・クロアチア・スロベニア・バルト 3 国等が独立しました。

イギリスのロックバンド、クイーンのボーカル フレディ・マーキュリーが肺炎で亡くなり、ミャンマーのアウン・サン・スー・チーさんがノーベル平和賞を受賞しました。そして、ソ連の崩壊。そんな世界が混沌としている中、当クラブは誕生しました。ちなみに、石川遼選手やとと姉ちゃんこと高畑充希さん、元 AKB の前田敦子さんも誕生しております。

創立の話に戻しまして、チャーターメンバーは 41 名で平



均年齢が 44 歳位と、今では考えられないぐらい若かったということです。

当時のガバナーが下呂 RC の中川さんとか、特別代表が釧田さんのお父さんとか、スポンサークラブやコ・スポンサークラブなど皆さんが知っていることを教えていただきました。

高山短期大学においての、チャーターナイトは準備も含め大変であったことなどを伺いました。提供料理の試食は何度もやられたようですが…。

そして、最後に 23 代会長の山本さんより“わたしの高山中央 RC への思い”という題で、とても熱い思いを聞かせていただきました。

あまりに思いが熱すぎて、あまり覚えてはいないのですが（冗談です）。創立の次年度に入会したことで、チャーターメンバーにはない全員の承認を得たことや、実はチャーターナイトで料理を提供していたことであったり、委員会のメンバーの良いところをそれぞれにおっしゃられました。その口調であったり言葉には、中央 RC への思いが感じられました。決して、宴会に高山 RC が芸者で、西 RC が酌婦なのは、中央がコンパニオンを呼ぶからではないと断言できます。

ちなみに、3 名の諸先輩方の話の終わりには、決まって皆さん「まあ詳しいことはこの後飲みながら・・・」でした。あつという間に閉会のあいさつです。大保木委員長より「詳しいことはこの後飲みながら・・・」で懇親会に移りました。

懇親会では、料理を食べ、酒を酌み交わしながら、途中、島さんのすばらしい話を聞きながら二次会・三次会と続き、皆さんが我々を楽しませようとしてくれていることを、ありがたく感じました。若輩者がいうのもなんですが、さすが諸先輩方は盛り上げ方の引き出しが多いなと思いました。

この IDM 「ロータリーを学び考える夕べ」は、諸先輩方の RC への愛情と優しさで出来ているんだと感じました。

## <ロータリー情報>

### 釧田 廣喜

今、日本のロータリーの 70% が 1990 年以降入会の会員で占められています。1990 年以降ロータリーは変わり始め、2000 年を境に大きく変貌しました。否、既に変質したというべきかも知れません。変質とは本質を失って違う組織になってしまうということです。

では、ロータリーの本質とは何でしょうか？

私は“**職業奉仕を中核とした奉仕の理念の実践**”というように刷り込まれております。

しかし、近年入会した会員は、今ある変質しきったロータリーがロータリーであり、何が変質したのかの意識さえないと思います。

かつてロータリーとは「人類文化史が 20 世紀の時代に刻印を打った職業人の最も優れた倫理運動である」と言われたことも、「ロータリーの理念を育む人材育成の団体」であった事も知る人はほとんどいなくなって、「人道的奉仕をするため、ボランティアをするための団体」と考える人が大多数を占めるようになってきております。そして、国際ロータリーは世界一の NPO 法人を志向し、自らを「人道的奉仕団体」と位置付けております。

つまりは、過去に学んでないということであり、過去がそうであった事自体を知らないということでもあります。



眼前にあるロータリーは、かつてのロータリーとは分断された別のロータリーであり、ごく一部の人のみが、かつてのロータリーの影をしのいで在籍しているという構図が思い浮かぶのであります。

哲学者の鷺田精一さんが「戦争を知っている世代が、政治の中核にいる内は心配ない。平和について議論する必要もない。だが、戦争を知らない世代が、政治の中核となったときはとても危ない」という田中角栄さんが新人議員に過去を学ぶ重要性を語った言葉が紹介されていました。

そこで、研修委員会としては、決して変えてはならないロータリーの哲理が、消滅していく時代を迎えることがないようにしなければなりません。百年以上守られ、今日に伝わるものでも、ロータリアンがその価値を知らなければ、興味を持たなければ、土に埋もれるばかりです。

ロータリーの歴史とは伝承です。伝えられなくなれば終わりなのです。そのロータリーを学び大切にしようとする人がいて、はじめて魅力あるロータリーとなります。「ロータリーには何も無い、つまらない所だ」と思うのは、何も知らない、何も学ぼうとしないからなのかもしれません。ロータリーの哲理を学び、我が国のロータリーが継承する伝統の灯りを守り伝えていきたいものであります。



#### <ニコニコBOX>

当クラブが受け入れた交換留学生、ビクトリアさんの日本留学が決まりました。来春4月に立教大学に入学するそうです。また、我がクラブにも訪問することもあると思いますのでその時はよろしくお願いします。 **高木 純**

10/19・20と高山商工会議所青年部にて、東海ブロック大会が高山にて行われました。当クラブのメンバーの中にもOBとしてまたいろいろな場面でお世話になりました。参加人数も1400名を超える結果となりました。ありがとうございました。 **井ノ下 雄志 高橋 厚生**